

ソーシャル・ディスタンシングとソーシャル・ディスタンス(コロナ文化)

3 密を避ける用法の一つとしてソーシャル・ディスタンシングとかソーシャル・ディスタンスといった聞き慣れない言葉を耳にしますが、その違いをご存知ですか。

ソーシャル・ディスタンシングは、2002 年に発生した SARS-COV のアウトブレイクの際に用いられた造語で、「人的接触距離の確保」といった意味です。それではソーシャル・ディスタンスとはどのように違うのでしょうか。これはアメリカの社会学者パークが唱えた言葉で、個人や集団の親近度を表す「社会的距離」を意味します。従って新型コロナウイルス(SARS-COV-2)のパンデミックのなかで、昨今世界を揺るがす人権差別や格差の拡大に伴う疎遠な親近感や敵対感といった、悪い感情のレベルの意味にも取られます。故に、WHO(世界保健機構)は言葉の意味を明確にするために、「物理的距離」を意味するフィジカル・ディスタンシングと言い換えました。

私どもは、いつコロナウィルスに感染し発症するかわかりません。不幸にして罹患され、治療や隔離を強いられた方々の心情をおもんばかり、これからも寛容の精神と良い意味での親密度の高いソーシャル・ディスタンスを築いていこうではありませんか。これもコロナ災厄で会得した文化の一つではないでしょうか。

6 月 16 日をもって透析業務は日常に戻ることになりました。この半月余りの極度の緊張のなかで、職員はもとより関係者の総力を挙げての実行力とご協力に感謝致します。改めてこれまで培ったはまゆう文化を感じました。ご苦勞様でした。

最後になりましたが、この度は SARS-COV-2 のクラスター感染に際し、感染者 6 名の治療を快くお引き受け頂いた諸施設の皆様方に厚くお礼申し上げます。

皆様にとって明日もいい日でありますように。

2020.6.16

はまゆう会会長 市丸 喜一郎